

## 保険証廃止反対！の声、四条烏丸に響く

### 酷暑の中、さらに熱く、保険証廃止反対！15団体・23人が参加

8月2日、定例の消費税廃止・社会保障充実求める宣伝行動の日を「保険証廃止反対緊急宣伝」とし、15団体23人の参加で府民に「保険証廃止反対署名にご協力を」と訴えました。過酷な暑さの中でしたが、ノボリ、横幕、プラスターなどを使った宣伝は府民に大いにアピールしました。



○松田さん（民医連事務局長） すべての人が医療保険に加入しているという皆保険制度。これは日本が世界に誇るものです。ところが、国がこの制度を否定している。医療機関でも介護施設でも、マイナンバーカードの導入により大きな混乱を生じている。なぜこうした制度を導入しようとしているのか？いま、だれも困っていないのに、なぜ困った制度を導入しようとするのか？一日も早くこうした制度は止めてほしい。

○中村さん（社保協政策委員・保険医協会事務局次長） 保険証一枚で必要な医療が受けられるという制度が大きな曲がり角にきています。特に、「デジタル化」というよく分からない言葉に振り回されています。京都府保険医協会の調査では71%がトラブルを経験していると回答しました。保険証が読み取られなかった、他人の情報が紐付けされていたというケースなどです。保険証をなくすなという声を国に届けましょう。

○久保田さん（京商連会長） 私たちのいのちと

健康が危ない。マイナンバーカードには財界の意向が大きく反映しています。普通やったら、これだけ批判が強いマイナンバーカード、それを止めないのは理由があるんやと思うんです。やるんなら、選択できるようにしたらいいんじゃないですか？紙の保険証は残したらいいんです。世界からも評価されている日本の医療保険制度これを守っていきましょう。

○楠さん（年金者組合京都府本部副委員長） マイナンバーカードの導入に、NTTはじめ大企業が高額の出注を受けていると報道されています。また、個人情報情報を国が掌握することにより、軍拡・大増税を進めることができる。そして、個人情報の集中が目的ではないのでしょうか？お薬手帳、母子手帳、図書カード、学生証などありとあらゆる情報をマイナンバーカードに集中しようとしています。国が進めるデジタル化が社会保障を後退させるものになってはなりません。

○蔵田さん（共産党） いつでも、どこでも、どの医療機関にもかかれることができる医療制度。これを危うくする保険証廃止はぜったいに撤回させなければなりません。マイナンバーカードをつくるかどうかは個人の自由なのに、それを保険証にからめることが間違いです。みなさんの健康情報は大事な個人情報。それを守れないようにするようないまの国のやりかたは間違っています。みなさんの声で、保険証廃止を止めましょう。

